

# アポイ岳・ピンネシリ 登山マップ



**日高山脈** 北海道の中央南部を南北に走る約150kmの褶曲(しゅうきよく)山脈のうち、日勝峠付近から広尾岳付近までの約110kmの山岳地帯で、ナイフのように鋭い稜線やカルルなどの氷河地形が特徴的な高山と、豊かな森林と深い渓谷からなる山麓が特徴です。標高は1500mから2000mですが、より北に位置するため本州の3000m級の山に匹敵する高山環境が見られます。

**襟裳岬・庶野(しよや)・広尾海岸** 日高山脈が太平洋へ沈み込む地域で、海岸段丘や海食崖が連なる雄大な海岸線が特徴です。ハートの形をした豊似湖もこのエリアにあります。

**アポイ岳周辺** 日高山脈の西南部に位置し、地球深部の岩石である「かんらん岩」が露出する地域です。アポイ岳は超塩基性岩地(ちょうえんきせいがんち)と呼ばれる特殊な土壌と夏の間霧による冷涼な気候のため、低い標高でも数多くの寒地性植物(高山性植物)が咲き、ヒダカソウに代表されるここでしか見られない植物も多いことから、「花の百名山」として有名です。

一般に「公園」は、営造物公園と地域制公園に分けられます。営造物公園は、国又は地方公共団体が一定の土地の所有等を有し、目的に応じた公園を創り出し、一般公開しています。「都市公園法」に基づく都市公園が代表されます。(国営公園や広域公園など)地域制公園は、土地の所有等に関係なく、「自然公園法」に基づき自然景観の価値の高い地域に土地利用の制限等を設けて指定します。優れた自然の風景地を保護し、利用の増進、生物の多様性の確保を目的としています。(国立公園、国定公園、都道府県立自然公園)国立公園：我が国の景観を代表すると共に、世界的にも誇りうる傑出した自然の風景地(環境大臣が指定、行政的管理責任者は環境省)国定公園：国立公園の景観に準ずる傑出した自然の大風景地(都道府県の出を受けて環境大臣が指定、行政的管理責任者は都道府県)都道府県立自然公園：都道府県の風景を代表する傑出した自然の風景地(都道府県が指定、行政的管理責任者は都道府県)

## 注意事項(アポイ岳の自然 —「公共財産」— を次の世代に引き継ぐために)

### 【訪れる前に知っておいていただきたいこと】

- ①外来種の進入を防ぐため、靴裏の種子を持ち込まないようにして下さい。(アポイ岳1合目に靴洗場があります。)
- ②ストックはできるだけ使用せず、使用する場合は先端に必ずキャップをつけて下さい。
- ③登山道にトイレはありません。登山口でトイレを済ませるか、携帯トイレを持参して下さい。(アポイ岳5合目休憩舎近くに携帯トイレ用ブースがあります。)
- ④ヒグマ対策のため、クマスプレーや鈴を用意して下さい。

### 【登山するときに守っていただきたいこと】

- ①歩道から外れないでください。
- ②動植物や岩石などの採取は絶対に行わないでください。
- ③ヒグマとのトラブルを避けるため、鈴を鳴らすなどの対策をしましょう。臭いの強い食べ物は避け、ゴミは必ず持ち帰りましょう。犬を連れることはヒグマを刺激して大変危険です。
- ④登山口の入林届けボックスで氏名を記入して下さい。
- ⑤ヒグマの目撃や歩道の破損などの情報は、ビジターセンターなどにお知らせください。



## ●アポイ岳ジオパーク

日高山脈の形成とともに、地球深部から押し上げられたマントル(学術的には「幌満(ほろまん)かんらん岩」)が地上に現れた場所で、ほとんど変質しない状態で地球深部の情報が保たれていることや、地質の影響を受けた高山植物などの貴重な自然が評価され、平成20年に日本ジオパーク委員会から「日本ジオパーク」に認定されました。また、平成27年には「ユネスコ世界ジオパーク」にも認定されました。アポイ岳ジオパークには「かんらん岩から大地の変動を学び楽しむ」「高山植物から自然環境を学び楽しむ」「歴史から自然との共生を学ぶ楽しむ」の3つのテーマがあり、幌満峡エリア、アポイ岳エリア、様似海岸エリア、日高耶馬溪(ひだかやばい)エリア、新富エリアの五つのエリアで構成されています。

## ●アポイ岳ジオパークを詳しく知るために!

### アポイ岳ジオパークビジターセンター

アポイ岳ジオパークの拠点施設(入館は無料、開館4月~11月の毎日9時~17時)。様似の地質や自然、歴史文化を総合的に提供するとともに、アポイ岳登山の情報提供やアポイキャンプ場の受付も行っています。

## ジオパークとは(GeoPark)

地球や大地を表すジオ(Geo:ギリシア語)と公園を意味するパーク(Park:英語)を合わせた造語です。地球、大地を科学的に見て、重要な地形、地層、岩石などの自然遺産を含んだ自然に親しむためのエリア(パーク)を言い、場所だけではなく、その地域ならではの暮らしや祭りなどそこに住む人たちの文化も含まれます。言い換えれば「地形や地質などのテーマと地域文化の物語を持った大地の公園」と言えます。ジオパークの活動は3つから構成されています。

1. 保全(conservation) - 地元の人たちが大地の遺産を保全する。
2. 教育(education) - 大地の遺産を教育に役立てる。
3. ジオツーリズム(geotourism) - 大地の遺産を楽しむジオツーリズムを推進し、地域の経済を持続的な形で活性化する。

### ジオパークのマスコット



## ●アポイ岳周辺のミニ情報

日高山脈襟裳国定公園(指定日:昭和56年10月1日)  
 国指定特別天然記念物「アポイ岳高山植物群落」(昭和27年3月29日)  
 国指定天然記念物「幌満ゴヨウマツ自生地」(昭和18年8月24日)  
 国指定天然記念物「ヒメチャマダラセセリ」(昭和50年2月13日)  
 アポイはアイヌ語のアペ(火)・オ(ある)・イ(処)が由来です。

## ●アポイ岳周辺に関する問い合わせ先

北海道日高振興局環境生活課 0146-22-9254  
 アポイ岳ジオパークビジターセンター(ジオパーク・高山植物・登山情報・観光) 0146-36-3601  
 様似町商工観光課(ジオパーク・観光) 0146-36-2120

## ●コース情報

登り: 2時間40分(旧幌満お花畑経由は3時間30分)  
 下り: 1時間50分(旧幌満お花畑経由は2時間30分)  
 ビジターセンターから5合目まではトドマツやキタゴヨウ、ミズナラなどの森林地帯を歩きます。5合目から山頂を望み、6合目と7合目の中間あたりから展望が開け、高山植物の数も多くなります。

**タイム** (上段は登りの、下段は下りの時間(分)、中段は距離(m)を示しています。数字はおおよそのものです。)

